

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模	経営・技術の特徴
施設野菜專業經營 VII	人 3	トマト促成 a 80	1. 接ぎ木セル苗購入による2次育苗 2. UVカットフィルム・防虫ネット使用 3. 交配はマルハナバチ利用 4. 共同選果施設利用 5. 炭酸ガス局所施用 6. 統合環境制御 7. 常時雇用あり(1名)
		経営耕地面積 水田 80 畑	
経営目標	1 農業総収入 2 農業経営費 3 農業所得	67,296 千円 56,308 千円 10,988 千円	4 1日当たり農業所得 14,651 円 5 1人当たり年間労働時間 2,000 時間

2. 資本設備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
建物・施設	ビニールハウス(新設) (ハウス本体工事、二重カーテン、換気扇、灌水チューブ、電気工事込み)	8	長崎県型低コスト耐候性(50m):8000㎡	1	千円 92,598	14	千円 3,307
	育苗用ビニールハウス (ハウス本体工事、妻換気、側換気(手動)、灌水チューブ込み)	1	AP単棟ハウス:2000㎡	1	8,999	8	562
	重油タンク	4	1.9kL	1	729	7	52
	防油堤	4		1	874	25	35
	農機具倉庫	1	軽量鉄骨 20㎡	1	1,080	24	45
	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 60㎡	1	3,240	24	135
	計				107,520		4,137
	農機具	トラクター	1	20PS、140cm幅ロータリー装着	1	1,817	7
管理機		1	6.2PS	1	200	7	14
動力噴霧機		1	可搬式(5MPa)	1	213	7	15
トラック		1	軽トラック	1	917	4	115
加温機		4	800坪用(195,000kcl/h)	1	7,641	7	546
循環扇		8	1セット/10a	1	1,408	7	101
多段式サーモ		4	加温機取り付け	1	370	7	26
炭酸ガス発生装置		4	1600~1800㎡用	1	1,615	7	115
自動換気装置		8	1000㎡用	1	6,820	7	487
自動カーテン資材(2層)		8	LSスクリーン2層張り、自動制御	1	22,592	7	1,614
細霧システム		8	自動制御	1	10,704	7	765
統合環境制御装置 局所施用装置		4 4	モニタリング装置込み ダクトファン	1 1	7,048 2,800	7 7	503 200
計				64,144		4,631	

3. 技術体系(トマト促成)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(2次育苗) 育苗準備	鉢上げ準備	8月	トラック	2	4	8	育苗用ハウス 育苗ポット 育苗床土 コンテナ	育苗ハウスは防虫対策をとる。
鉢上げ		8月下旬～ 9月上旬	トラック	2	5	10	接ぎ木セル苗 2,500本	
管理	かん水 ずらし	8月下旬～ 10月上旬		1	3	3		かん水は午前中に行う。 茎葉が重なり合わないようずらしを行う。
病虫害防除	薬剤散布		動力噴霧器	1	1	1	殺虫剤 殺菌剤	県病虫害防除基準に基づく適正防除。 黄化葉巻病株は処分する。
(本ぼ) 耕うん整地		9月上旬	トラクター	2	2	4	堆肥 2t	完熟堆肥を施用し、深耕する。
病虫害防除	土壌消毒 ガス抜き	9月中～ 9月下旬	トラクター	2	3	6	土壌消毒剤 古ビニール	県病虫害防除基準に基づく適正処理。
施肥	基肥施用 耕耘  追肥	9月  11月～4月	トラクター	2  1	2  28	4  28	石灰質資材 120kg 磷酸質資材 40kg 10a当たり成分 N 30kg P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 20kg K <sub>2</sub> O 25kg	施肥量は土壌分析を参考に する。 Nの分施割合 基肥 50:追肥 50 第1回目は第3花房開花時 に行う。 以降は、草勢に応じて液肥で 施用。
ビニル被覆	外ビニール 張り 二重カーテン 準備 防虫ネット 設置	9月下旬～ 10月上旬	トラック	4	12	48	ビニール式 防虫ネット	
定植準備	うね立て	9月下旬～ 10月上旬	管理機	4	1	4		うね幅 1.8m
マルチ		9月下旬～ 10月上旬		4	2	8	ポリマルチ	マルチは、低温期になるまで 畦の肩部まで上げておく。
定植		10月上旬～中		4	5	20		株間45cm(2条) 10a当り 2,400株 第1段花房の1～2花開花し た頃。
支柱立て		10月上旬～中		4	6	24	支柱 エスター線 誘引ひも	横張りは、8～10段

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
管理	誘引	10月中～5月		3	45	135	誘引ひも 誘引クリップ	2段までは直立に誘引し、その後は斜めに誘引する。
	腋芽かぎ 摘果 摘葉	10月中～5月		3	45	135	ハサミ	腋芽は早めに除去する。
ホルモン処理 マルハナバチ 交配	着果促進	10月中～4月下		2	19	38	ホルモン処理剤 マルハナバチ	マルハナバチ利用による交配。 下段花房(1～3段)、厳寒期はホルモン処理を行う。
統合環境制御		10月～5月	加温機 多段式サーモ 循環扇 自動換気装置 炭酸ガス発生装置 局所施用装置 細霧システム 統合環境制御装置	1	24	24	A重油12000L 灯油1500L	厳寒期の保温対策の実施 最低温度 12℃以上確保 昼間温度 25～28℃ 炭酸ガス:ゼロ濃度差施用 自動換気装置、炭酸ガス、2重カーテン、細霧システム、昇温抑制資材は自動制御
かん水		10月中～5月		1	28	28		着果後から徐々に量を多くする。 草勢に応じて少量多回数のかん水を行う。
病害虫防除	薬剤散布 耕種的防除	10月中～5月	動力噴霧機	4	18	72		県病害虫防除基準による適正防除。 マルハナバチへの影響を考慮する。
収穫		12月～6月	トラック	4	80	320	ハサミ コンテナ 収穫台車	
出荷		12月～6月	トラック	1	24	24	コンテナ	共同選果施設の利用
後かたづけ	ほ場環境浄化	6月	トラック	4	5	20		収穫終了後にハウスの蒸し込みを行う。
計						964		

4. 品目の作付体系(▼鉢上げ、○ハウス被覆、△定植、□収穫)

	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12	
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
トマト促成																								

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

1)トマト促成栽培

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
育苗作業(2次育苗)																									22
定植準備																									12
定植																									20
かん水	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	28
マルチ張り																									8
ビニール被覆																									48
支柱立て																									24
栽培管理作業	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	10													270
交配	5	5	5	5	5																				38
追肥	1	1	1	1	1	2	2	2	2																28
温度管理	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1															24
病害虫防除	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3														78
収穫出荷	8	12	18	18	24	24	24	24	24	24	18	12													344
後かたづけ																									20
計	30	34	41	41	41	43	43	43	43	41	41	32	13	1	0	0	0	0	10	10	10	10	10	10	964
月計	98		123		129		129		123		46			0		27		80		81		65		63	

6. 総労働時間

	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計	
	上	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
総労働時間	240	272	328	328	328	344	344	344	328	328	328	256	104	8	0	0	0	80	96	40	264	200	184	136	184	7712
うち家族労働	180	212	268	268	263	274	274	274	258	258	261	196	104	8	0	0	0	80	96	40	244	140	124	76	124	6000
うち雇用労働(常時)	60	60	60	60	65	70	70	70	70	70	67	60						60	60	60	60	60	60	60	60	1712